



ほふる

◆建設的な生き方へのお手伝い (Just do it!) ◆
(カウンセリングのことは当社までお問合せ下さい)
【今月の一冊】今いる仲間で「最強のチーム」をつくる
池本 克之 著 日本実業出版社
ホームページ URL <http://www15.ocn.ne.jp/~prime21/>

発行日 2015年3月1日 Vol. 149
発行元 有限会社プライム・コーポレーション
ライフコンサルタント 渡邊敏徳
〒401-0015 山梨県大月市大月町花咲 147 番地
TEL 0554-22-2810 FAX 0554-22-2859

景気回復

アベノミクスによる業績向上で、大手企業のベースアップなどの声が耳に届いてきています。一方で地方にはまだまだという声もたくさん聞きますが、実態はどうなのでしょうか……。

帝国データバンクの調査によると、2014年に休廃業や解散した企業は2万4106件で倒産件数の約2.6倍。倒産件数と合わせると3万件を超えています。

解散の場合は、多くは従業員を他企業や新会社などに引き継ぎますが、休廃業や倒産の場合の従業員への影響は甚大です。

2014年に休廃業や倒産した企業の従業員数はそれぞれ約4万3000人ずつの8万6000人超で、千葉県四街道市の人口に匹敵するほどの人が、休廃業や倒産によって職を失ったことになるそうです。

業種別に休廃業や解散の件数を見ると、建設業が全体の3割を占めてトップに立っています。業績をさらに細かく分けて、休廃業・解散率を算出すると、5%を超えたのは写真現像・焼付業。上位20業種の中には、他に野菜や米穀等の小売業や喫茶店、衣料品等の小売業、書籍小売業などかつて商店街を賑わせていた業種が並んでいます。

さらに休廃業や解散した企業の経営者の高齢化も顕著で、後継者難も同時に起きていて深刻です。取引先を選定する際に、後継者の有無で事業の継続性を判断する大手企業もあることから、事業承継にも経営者の判断が重要になってきています。

景気回復はまだまだこれからで、たくさんの課題が山積しています。立ち止まらずに継続して進んでいかなければいけませんね。

【100人中4人に相続税が発生】

高齢化が進む中、亡くなる方の人数も増加の一途です。2012年の死亡者126万人のうち、相続税の申告をして納税負担が出たのは5万2千人でした。今年の1月から相続税法が改正されたことにより益々対象者が増えていきそうです。相続税対策も必要な時代に……。

断・捨・離

先日、断捨離(だんしゃり)という話を聞きました。断捨離とは、ヨガの「断行(だんぎょう)」、「捨行(しゃぎょう)」、「離行(りぎょう)」という考え方を応用して、人生や日常生活に不要なモノを断つ、また捨てることで、モノへの執着から解放され、身軽で快適な人生を手に入れようという考え方だそうです。

従来の「もったいない」「まだ使える」というモノを軸とした考え方ではなく、「このモノは私に相応しいか」と問いかけてみる。つまり、主役はモノではなく「自分自身」。「モノと自分自身との関係性」を軸に取捨選択していくことが大切だということ……。

断捨離の時間軸は、いつも“今”。今持っているモノ、1つ1つに対して、今の自分にとって必要かどうかを問いかけて、取捨選択していく。

思い切ってモノを手放すことで、空間・時間・エネルギーにゆとりが出てきて、そのことが気持ちのゆとりにつながる。引き算の法則(必要なものを以外捨てていくこと)を使い、人生の停滞を取り除き、年度替りの今、新陳代謝を促してみる時期かもしれませんね。

また、年末の時期には殆どの人が“大掃除”をしているのではないのでしょうか。やはり、節目を上手に使っていくことも大切なのではないかと思います。

仕事で使用しているパソコンの中にも必ず“ごみ箱”のアイコンが存在しています。何かを捨てることで、何かが入ってくる。入ってくるスペースをつくらなければ、いつまでも変化のない時間を過ごすことになってしまいます。思い切って今不要だと思うものを捨てて、新しいものを自分自身の中に取り入れては如何ですか。捨てる勇気も必要ですね。

断 入ってくる不要なものを断つ
捨 不要なものを捨てる
離 モノの執着から離れる

こんなことに思い当たるなら、
断捨離で物を整理すると心が自由に。

- ☐ いつか使うと思うと捨てられない
- ☐ 使えるものは捨ててはいけない
- ☐ いつかは片付けたいと思っている
- ☐ 片付かないとあきらめている
- ☐ 思い出の詰まったものは捨てたくない
- ☐ 友人や家族にもらったものが捨てにくい